

令和3年第15回(定例会)

厚真町教育委員会会議録

1 開会

令和3年12月28日(金)14時30分

2 閉会

令和3年12月28日(金)16時20分

3 出席委員の氏名

遠藤 秀明 池川 徹 長門 茂明 金光 えり 日西 大介

4 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名

生涯学習課参事 宮下 桂

生涯学習課参事 作田 和彦

5 会議録署名委員の指名

(長 門 茂 明)

(池 川 徹)

6 教育長報告

(1) 行事参加等の動向 (資料1)

(2) 第4回厚真町議会定例会(12月15日～16日) (資料2)

・一般質問

・補正予算

【 質 疑 】

金光委員：議会一般質問に関連して、高校魅力化の公営塾は、高校校舎を拠

点にはできないのか？

宮下参事：現段階では高校側の意向もあり校舎を使用するという段階になく、スポーツセンター会議室以外にも高校の校門前にありバス停までも導線上にある本郷マナビィハウスも視野に入れている。活動する内容や時期によって最適な場所があると思うので様々な可能性を探っている。12月の試行でも本郷マナビィの方が立ち寄ってくれる生徒の数は多いことは確かであった。

7 所管報告

学校教育グループ

- (1) 令和3年度第3回厚南地区学校運営協議会（11月25日（木）／上厚真小学校）（資料3）
- (2) 令和3年度第3回中央地区学校運営協議会（12月8日（水）／厚真中央小学校）（資料4）
- (3) 教育研究所第5回運営委員会（12月8日（水）／総合福祉センター第二会議室）（資料5）
- (4) 食物アレルギー研修会（12月17日（金）／総合ケアセンターゆくり2階介護学習室／真駒内キッズクリニック小児アレルギーエドゥケーター大竹 由香穂 氏／教員・保護者等22人参加）（資料6）
- (5) 厚真町教育支援委員会（12月20日（月）／総合福祉センター／在籍児童生徒16人・新入学児童18人）（資料7）
- (6) 12月校長会議・教頭会議（資料8）

【 質 疑 】

池川委員：教育支援委員会報告に関わって、新入学の児童数は何人か？

宮下参事：40人である。

池川委員：約半数の児童が教育支援委員会の対象になったということか？

宮下参事：そのとおりである。

池川委員：小学校に上がる前の早い段階からこうした児童の状況について把握できるような体制になっているのか？

宮下参事：発達に課題があり医療に係っているお子さんの状況については各種健診等の段階で保健師が把握しており、それらの情報は保護者の了承を前提に支援委員会でも共有される仕組みとなっている。それ以外の「園での集団生活上少し気になる」といった情報についても今年度からは実務者会議として、小学校の特別支援コーディネーターが療育担当者等とともにこども園に足を運んできめ細かく共有を行っている。

池川委員：これだけ特別支援学級の対象者が増えても教室は足りるのか？

宮下参事：現在のところ小学校はなんとか足りている。中学校は新年度に向け学級増があるので教室の分割改修工事を今回の補正予算で計上している。

長門委員：実務者会議によって対象となるお子さんをつぶさに拾えるようになったことでより適切な教育的支援につなげられるようになったということだとは思いますが、すなわちそれはこれまで以上に教育支援委員会の対象になる児童が増えるということか。

宮下参事：これまでと比較すると本来対象になるお子さんが対象から漏れるという事態はなくなることは確かである。人数が多いかどうかはその年その年個々の状況によるので判断は難しい。

日西委員：食物アレルギー研修会に関連して、現在食物アレルギーのある児童生徒は何人くらいいるのか？

宮下参事：15人である。

日西委員：それらの児童生徒は自分にアレルギーがあることを自覚しているのか？

宮下参事：自覚している。基本的に食物アレルギーのあるお子さんについては、保護者、学校、センター3者共通理解の下、一人一人のアレルギーの状況に合わせた代替食を提供している。

教育長：本町ではアレルギーに対する偏見や差別につながらないような給食指導も行われており、周囲の子どもたちも友だちのアレルギー

の状況については理解している。

社会教育グループ

- (1) 厚真町文化講演会（11月26日（金）／福祉センター青年室／講師：
末續慎吾（北京五輪銀4×100m 銀メダリスト）／「夢を追い続けて
見てきた世界」／50人参加）
- (2) 厚真町商工会から児童生徒芸術鑑賞会へ寄付（12月3日（金）／教
育長室／寄付額25万円）
- (3) 松浦武四郎之碑（指定文化財石碑）移転工事完了（12月16日（木）
／富里地区（厚北地域防災コミュニティセンターならやま 敷地内）
- (4) 放課後子ども教室・冬休み特別教室
 - ①「厚真の森のクリスマスパーティーデイキャンプ」
（12月25日（土）／町環境保全林／小学1～6年生19人）
 - ②「つくって飾ろう&つくって使おう 森からのおすそわけクラフトデイ
キャンプ」
（12月26日（日）／福祉センター／小学低学年9人高学年12人）
- (5) ルーブル絵画展開催（12月25日（土）～翌年1月16日（日）／青
少年センター2階ギャラリー

【 質 疑 】

池川委員：商工会からの寄附はこれまでも毎年受けていたものか？

教育長：今年度に限ったものである。当初商工会が令和3年度に外部の助成を受けて企画していた芸術鑑賞事業があったが、コロナで中止となったため、類似事業への充当を検討していたところ、小中学生の芸術鑑賞会に充当できると助成団体に判断されたことから、その額を今年度に限り寄付いただいたものである。

8 協議事項

- (1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報

告書」への市町村別結果の掲載について（資料9）

（2）総合教育会議の協議内容について

【 質 疑 】

金光委員：学年が上がるにつれて体力合計点が低くなっていくというような傾向はあるのか？そうした傾向がつかめれば対策も打ちやすくなると思うが。

宮下参事：本町では母数が少ないため集団全体としての傾向というよりは個々の特性が全体の結果に影響し易い。平均値だけを見て対策を打つても的を外す可能性がある。個々の特性を拾える人数であり、学校でもこの特性はつかめているので個に応じた対策が打たれていくことを期待している。

池川委員：調査結果を掲載すること自体に異議はない。

池川委員：総合教育会議の協議内容について、現在本町では小中一貫教育を推進しているが、少子化が進みつつある現状の中で、学校の統廃合も含めた今後の学校配置計画について現時点での考えがあるのかどうか確認してはどうか？学校統合となると様々な住民感情はあると思うが、あくまで将来に向けてということにはなるが行政として統合によるメリットやデメリット等を整理しておくことは必要ではないか？

長門委員：小さな学校はこれまでも閉校ギリギリまで頑張ってしまう傾向にあった。ギリギリまで頑張ってしまった結果、その渦中にいる子どもたちは良くも悪くも様々な影響が生じた。統廃合にはマイナス感情を抱く地域の方も一定数いるが、子どもたちにとってどのような教育環境が適切であるかについては、地域住民にもしっかり理解してもらう必要がある。特に集団による教育効果については、どの程度の規模観が適正なのかなどについても予め整理して地域に理解してもらっておく必要はある。

日西委員：自分は「旧ならやま小学校」が「中央小」に統合された時の当

事者であるが、子どもの立場としては、統合にはメリットもデメリットも両方あると思っている。小規模校であれば圧倒的に学習面で先生からのサポートを手厚く受けられるメリットがある。他方、友だちや人間関係は限られるので、規模の大きい学校の方が友だちや人間関係が豊富になるという点で圧倒的により大きなメリットであった。

金光委員：まちづくりとも深く関係する話。行政区域が広い本町において考えるべきことは多い。

池川委員：人口減少や少子化は今後も否応なく進んでいく。将来向き合わなければならない課題として総合計画に落とし込んでおいて、町民が議論できる材料は整理しておく必要がある。

教育長：総合計画も現行計画の期間は令和7年までとなっており、令和8年以降の新たな10年間の計画づくりが、ここ2、3年の間に始まるものと思われる。そうした中でこの話題がどのように議論されていくのか教育委員会としても様々なデータを整理していきたい。ぜひこの点についても協議内容に加えたい。

9 その他

(1) 総合教育会議の開催について

令和4年1月20日(木) 午後3時00分／役場本庁舎応接室

(2) 教育委員会新年会について

令和4年1月5日(水) 午後6時00分

(3) 令和3年度成人式について

10 次回委員会の開催日程

- ・1月27日(木) 午後2時30分(予定)

11 閉会